

熊本商工会議所・第44回 経営動向調査

平成19年6月期 結果報告書

業況DI マイナス19.9 前期(19年3月期)からやや改善

～特に、飲食業、卸売業が大きく改善～

調査結果のポイント

全業種の業況DI値は▲19.9となり、前回(平成19年3月期)調査の▲27.7と比較して、やや改善(プラス7.8ポイント)した。

前回調査から業況が改善したのは5業種で、飲食業が▲25.0(プラス41.7ポイント)、卸売業が▲11.5(プラス38.5ポイント)、サービス業が▲9.6(プラス6.7ポイント)、小売業が▲23.2(プラス6.2ポイント)、建設業(職別・設備)が▲10.0(プラス5.4ポイント)であった。一方、悪化を示したのは、建設業(土木)が▲40.0(マイナス17.8ポイント)、製造業が▲38.5(マイナス9.9ポイント)の2業種であった。

今回の調査で業況を全体で見ると、業況DIは▲19.9と依然としてマイナスの低水準で推移しているが、前回調査と比較してやや改善の傾向となっている。特徴としては、前回調査で悪化が見られた5業種が改善に転じ、一方、前回、改善傾向にあった業種が今回は悪化するなど、業種毎には一進一退の動きにあるものの、全体的には緩やかな回復傾向にあるものと思われる。

また、来期(平成19年7～9月)の業況見通しとしては、全体として悪化の見通しが多くなり、特に飲食業において厳しい業況見通しとなった。

- ・ 調査対象期間 平成19年4月～6月(平成19年度 第1四半期)
 - ・ 調査期間 平成19年6月25日(月)～6月29日(金)
 - ・ 調査対象数 熊本市内 小規模企業 288事業所
 - ・ 回答数 224事業所(回答率77.8%)
- ※ 小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業をいう。

《業種別回答状況》

対象業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	37	26	70.3
建設業(土木)	20	15	75.0
建設業(職別・設備)	34	30	88.2
卸売業	34	26	76.5
小売業	72	58	80.6
飲食業	21	17	81.0
サービス業	70	52	74.3
合計	288	224	77.8

※ DI値(業況判断指数)について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表わすものである。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした前回(19年3月期)調査と比較した概況

【全業種】

製造原価・仕入(材料等)単価が悪化したが、販売(受注)・客単価は僅かに改善した。
売上高が改善し、採算(営業利益)も改善となった。

〈製造業〉

製造原価が悪化し、販売(受注)単価もやや悪化となった。
売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)も悪化となった。

〈建設業(土木)〉

仕入単価が大きく悪化し、受注単価も悪化となった。
売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)も悪化となった。

〈建設業(職別・設備)〉

仕入単価が悪化したものの、受注単価は僅かに改善となった。
売上高が僅かに改善し、採算(営業利益)はほぼ横ばいとなった。

〈卸売業〉

仕入単価が大きく改善したものの、売上単価は悪化となった。
売上高が大きく改善し、採算(営業利益)も大きく改善となった。

〈小売業〉

仕入単価が大きく悪化したものの、客単価は改善となった。
売上高が改善し、採算(営業利益)も改善となった。

〈飲食業〉

仕入単価が大きく悪化したものの、客単価は改善となった。
売上高が大きく改善し、採算(営業利益)も大きく改善となった。

〈サービス業〉

仕入単価(材料等)が大きく悪化したものの、客単価はほぼ横ばいとなった。
売上高が改善し、採算(営業利益)も改善となった。

業種別の業況一覧

上段＝対前期比
下段＝対前年同期比

業種	今回調査 (19年6月期)	前回調査 (19年3月期)	今回調査との 比較ポイント
全業種	▲ 19.9	▲ 27.7	7.8
	▲ 24.0	▲ 24.2	0.2
製造業	▲ 38.5	▲ 28.6	▲ 9.9
	▲ 42.3	▲ 32.1	▲ 10.2
建設業 (土木)	▲ 40.0	▲ 22.2	▲ 17.8
	▲ 42.9	▲ 22.2	▲ 20.7
建設業 (職別・設備)	▲ 10.0	▲ 15.4	5.4
	▲ 6.7	▲ 20.8	14.1
卸売業	▲ 11.5	▲ 50.0	38.5
	▲ 11.5	▲ 25.0	13.5
小売業	▲ 23.2	▲ 29.4	6.2
	▲ 33.9	▲ 23.5	▲ 10.4
飲食業	▲ 25.0	▲ 66.7	41.7
	▲ 23.5	▲ 53.8	30.3
サービス業	▲ 9.6	▲ 16.3	6.7
	▲ 15.4	▲ 14.3	▲ 1.1

来期(19年7~9月期)の業況見通し

全業種における来期(19年7~9月期)の業況見通しのD I値は▲13.0となり、19年3月期の前回調査の業況D I値▲3.2と比較して▲9.8ポイント悪化し、全体としてやや厳しい業況見通しとなった。

業種別で、前回調査と比較して来期の見通しD I値が改善する業況見通しの業種は、建設業(土木)、製造業の2業種であった。一方、業況見通しが悪化の業種は、飲食業、建設業(職別・設備)、小売業、卸売業、サービス業の5業種に上り、なかでも飲食業はマイナス31.3ポイントとなり、厳しい業況見通しとなった。

業種別の来期における業況見通しは、次の一覧のとおり。

業 種	今回調査 (19年6月)	前回調査 (19年3月)	今回調査との比較
全業種	▲13.0	▲3.2	▲9.8
製造業	▲20.0	▲28.6	8.6
建設業 (土木)	▲21.4	▲42.9	21.5
建設業 (職別・設備)	±0.0	18.2	▲18.2
卸売業	▲13.0	±0.0	▲13.0
小売業	▲15.7	▲2.3	▲13.4
飲食業	▲31.3	±0.0	▲31.3
サービス業	▲4.7	2.6	▲7.3